

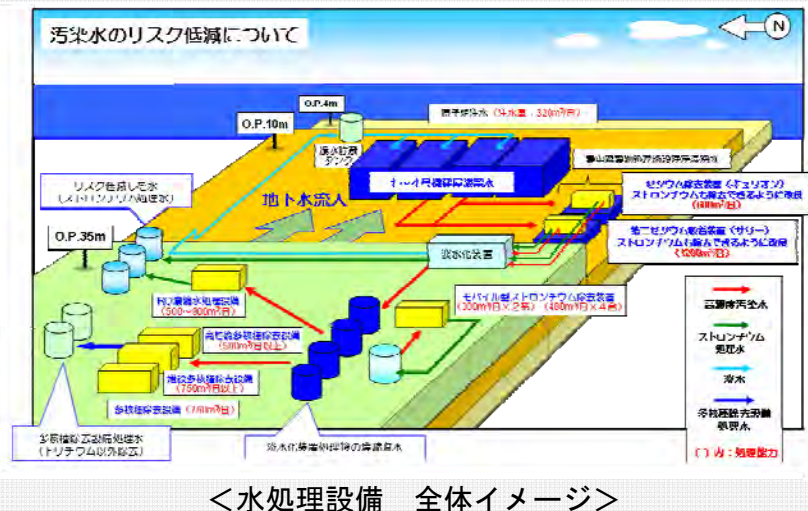
取り組みの状況

- ◆1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約10℃～約40℃※1で推移しています。また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく※2、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。
- ※1 号機や温度計の位置により多少異なります。
- ※2 1～4号機原子炉建屋からの現時点での放出による、敷地境界での被ばく線量は最大で年間0.03ミリシーベルトと評価しています。これは、自然放射線による被ばく線量(日本平均：年間約2.1ミリシーベルト)の約70分の1です。

セシウム吸着装置（KURION/SARRY）によるストロンチウム除去運転を開始

建屋より移送した汚染水からセシウムを取り除くセシウム除去装置（キュリオン（KURION）とサリー（SARRY））にて、ストロンチウムも除去できるよう改造し、12/26より運転を開始しました。

ストロンチウムの除去性能が目標を達成することを確認できたため、1/19以降は、新たにRO濃縮塩水（ストロンチウム処理の必要な汚染水でタンク内に貯蔵）が発生することはなくなりました。



RO濃縮水処理設備の運転開始

多核種除去設備（ALPS）に加え、ストロンチウムを除去する複数の浄化設備の設置を行い、タンク内の汚染水の処理を進めています。

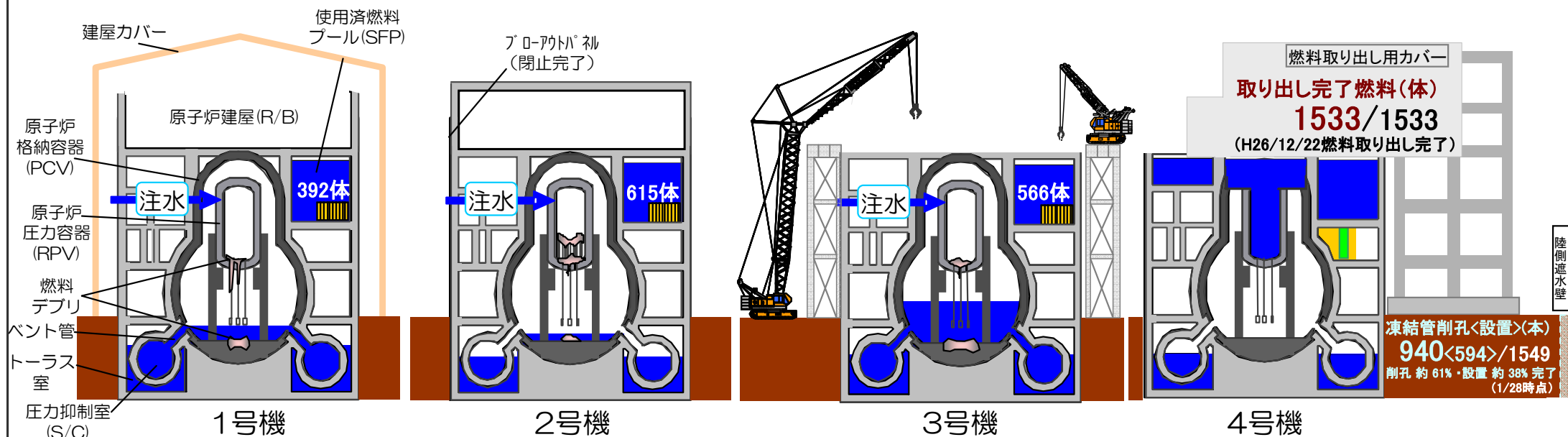
新たにRO濃縮水処理設備を設置し、1/10より汚染水の処理を開始しました。

引き続き、多重的な対策により汚染水のリスク低減を図ります。

汚染水処理の見通し

多核種除去設備（ALPS）等により汚染水の処理を進めています。現時点のペースで処理した場合、年度内の汚染水全量処理は難しく、処理完了は5月中になる見通しです。

具体的な全量処理完了時期は3月中旬までに明らかにします。



1号機原子炉内燃料デブリ調査開始

1号機原子炉内の燃料デブリの有無を調査するため、宇宙線由来のミュオン（素粒子の一種）を用いた測定を今後開始する予定です。

調査結果は燃料デブリ取り出し工法の検討に活かします。

2号機原子炉内故障温度計の引き抜き完了

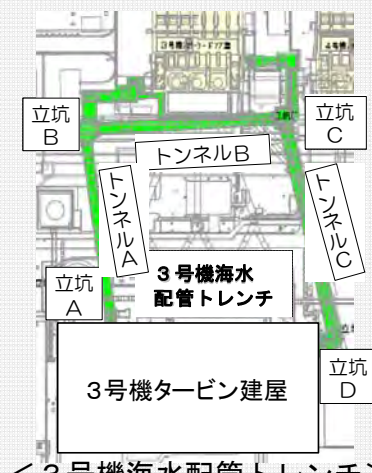
平成26年2月に故障した温度計の引き抜きのため、1/14より錆除去剤を注入し1/19に引き抜きが完了しました。

今後、今年度中に温度計を再設置予定です。

3号機海水配管トンネル部の充填開始

3号機のタービン建屋から海側に伸びる海水配管トンチ注について、2号機の海水配管トンチと同様の方法で、トンネル部の充填を今後開始します。

注) トンチ：配管やケーブルが通るトンネル



廃炉・汚染水対策福島評議会の開催

1/7に第6回会合（福島市）を開催し、中長期ロードマップ改訂の考え方を紹介し、地元からご意見を頂きました。

頂いたご意見を踏まえて、ロードマップ改訂作業を進めてまいります。

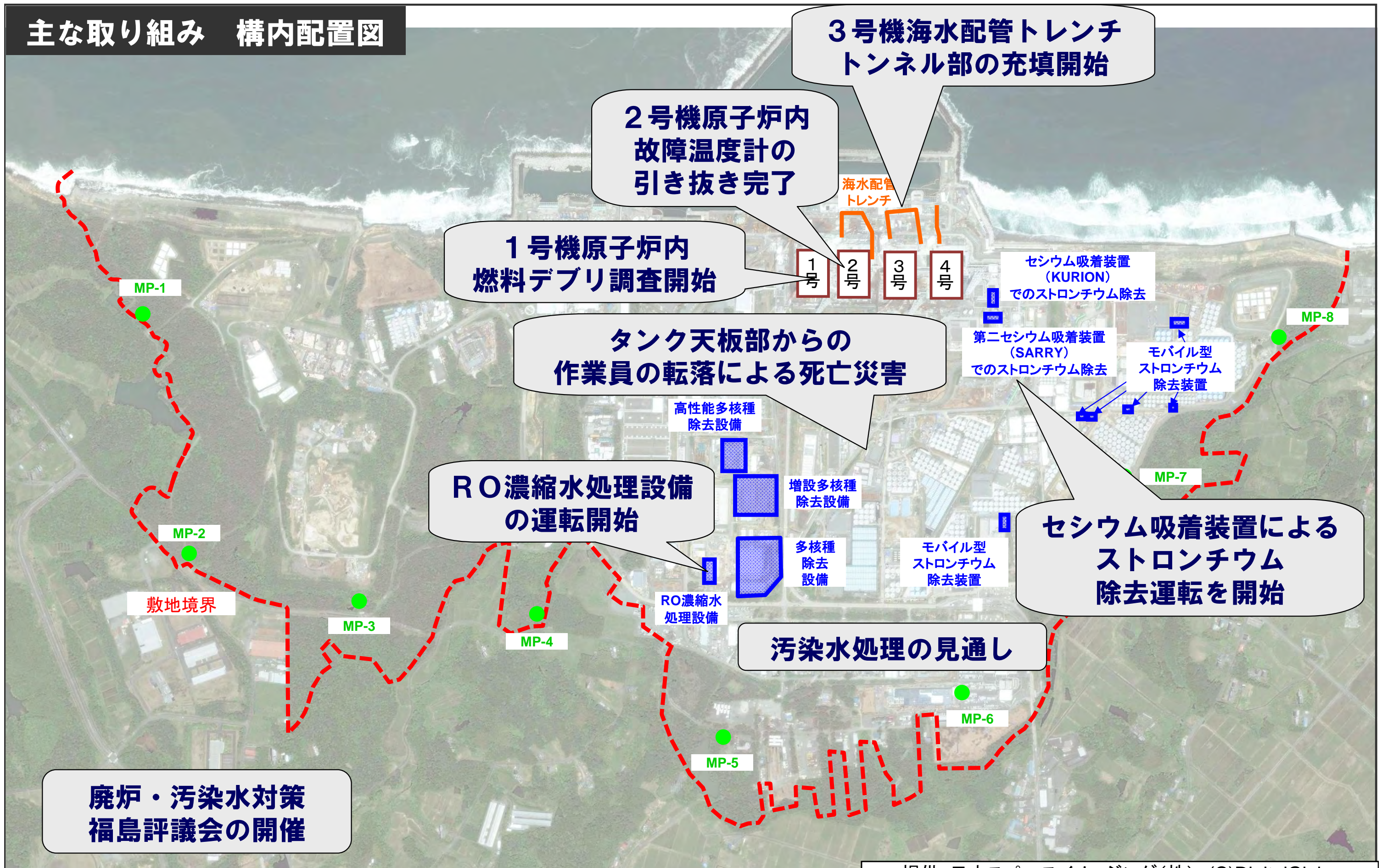
タンク天板部からの作業員の転落による死亡災害

雨水受けタンク設置工事において、1/19にタンク内面を検査するための準備作業を実施していた作業員が、当該タンク天板（高さ：約10m）から転落し、1/20に亡くなるという災害が発生しました。

1/21より全ての構内作業を中止し、安全点検を実施しています。

今回の災害の発生原因について詳細に調査するとともに、再発防止に努めることとしています。

主な取り組み 構内配置図



提供: 日本スペースイメージング(株)、(C)DigitalGlobe

※モニタリングポスト (MP-1~MP-8) のデータ
 敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト(MP)のデータ(10分値)は1.053 μ Sv/h~3.963 μ Sv/h(2014/12/24~2015/1/27)。
 MP-2~MP-8については、空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、2012/2/10~4/18に、環境改善(森林の伐採、表土の除去、遮へい壁の設置)の工事を実施しました。
 環境改善工事により、発電所敷地内と比較して、MP周辺の空間線量率だけが低くなっています。
 MP-No.6については、さらなる森林伐採等を実施した結果、遮へい壁外側の空間線量率が大幅に低減したことから、2013/7/10~7/11にかけて遮へい壁を撤去しました。